

教科（科目）	国語（現代の国語）	単位数	2単位	年次（系列）	1年次
使用教科書	高等学校 現代の国語(数研出版)				
副教材等	新訂国語図説(啓隆社)、新版意味から学ぶ常用漢字(第一学習社)、現代の国語の基礎学習（尚文出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

進学、就職等希望進路が多岐にわたっていることから、
1. 基本的な言語事項や語彙の習得、常用漢字の確実な習得を目指します。
2. 文や文章の構造を理解した上で読解ができるようになることを目指します。
3. 自己の考えを的確に表現し、他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の能力を身につけている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、意見文などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、意見文などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。

6 学習計画

考査	単元名 (学習項目)	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
	I 期 中 間	対比の構造	1 「C読むこと」	「論理的ということ」 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	b	ワークシート(記述の点検)
			2 「A話すこと・聞くこと」		a	ワークシート(記述の確認)
					c	発表の様子(行動の確認)
		対比の構造	1 「C読むこと」	「水の東西」 ・文章内容に関連した具体例を探し、その内容を簡潔にまとめる。	a	ワークシート(記述の点検)
			2 「A話すこと・聞くこと」		c	発表の様子(行動の確認)
			2 「B書くこと」		b	ワークシート(記述の確認)
		定期テスト	1 「B書くこと」	・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に解答する。 ・設問の意図を読み取り、適切に表現する。	a、b	記述の確認
		一般論と主張	1 「C読むこと」	「『わらしべ長者』の経済学」 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わる姿勢を学ぶ。	b	ワークシート(記述の点検)
			2		a	ワークシート(記述の確認)

前期	Ⅰ 期 期 末	論理とレトリック	「A話すこと・聞くこと」 1 「C読むこと」	「ズームアップ」情報とメディア 「コインは円形か」	・筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめ、意見交換をする。 ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈する。	c b	発表の様子(行動の確認) ワークシート(記述の点検)
		実用の文章	6 「B書くこと」	目的に合わせて表現を工夫する 資料を分析して考えをまとめる 根拠の妥当性を説明する	・条例とパンフレットの表現上の特徴をとらえ、読み手を意識してわかりやすい文章を書く。 ・資料から読み取れる事を分析し、自分の考えを文章にまとめる。 ・客観的な根拠や妥当性のある理由づけを考えて書く。	b a	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 記述の様子(行動の確認)
		定期テスト	1 「B書くこと」		・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に解答する。 ・設問の意図を読み取り、適切に表現する。	a、b	記述の確認
		具体と抽象	3 「C読むこと」 2 「A話すこと・聞くこと」	「ものとことば」 「人と自然の共生とはどういうことか」 「ズームアップ」どこにも蝶などいない	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 ・筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを深める。 ・文章内容に関連した具体例を探し、その内容について詳細に調べる。	b a c	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
	Ⅱ 期 中 間	書き言葉の技術	5 「B書くこと」	「文章トレーニング」 文章構造を理解する・要約する	・文章の構造や要約の仕方についてワークシートに記入する。 ・要点に沿って100字で要約しコメントを書く。	b a c	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
		定期テスト	1 「書くこと」		・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に解答する。 ・設問の意図を読み取り、適切に表現する。	a、b	記述の確認
		視野を広げる	3 「C読むこと」 2 「A話すこと・聞くこと」	「科学コミュニケーション」 「他者を理解すること」 「ズームアップ」自己と他者の理解とは	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ・論理展開を押さえながら筆者の述べている内容を粘り強く読み解き、学習課題に沿って適切にまとめる。 ・筆者の考え方に対する自分の意見を、具体例とともに説明する。	b a c	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
	後期	比較する	3 「C読むこと」 2 「B書くこと」 2 「A話すこと・聞くこと」	「政治的思考」 「絵を前に思いを巡らす」 「探究の扉」未来をはじめ	・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解する。 ・特定の意見に対して、筆者の立場から反論を述べる。	b a c	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
			3 「B書くこと」	「文章トレーニング」 要約する・比較する	・文章の構造を意識してまとめる。 ・比較や論証の仕方や意見文の書き方についてワークシートに記入する。	a	ワークシート(記述の確認)
		定期テスト	1 「B書くこと」		・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に解答する。 ・設問の意図を読み取り、適切に表現する。	a、b	記述の確認
		思考を深める -関連づけて読む	2 「C読むこと」 2 「B書くこと」 2 「A話すこと・聞くこと」	「時間と自由の関係について」 「時を編む人間」 「ズームアップ」近代と時間の関係	・内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・時間に関することわざを選び、その内容が現代社会でもあてはまるかを検討した上で、自分の考えを根拠とともに述べる。 ・特定のテーマについての本を読み感想文を書いた上で、その内容を発表する。	b a c	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)

年次末	話し言葉の技術	6 「A話すこと・聞くこと」	「聞くトレーニング」 「話すトレーニング」	・情報の聞き取り方の要点を知り、正確に聞き取る練習をする。 ・スピーチ原稿を作成し、説得力のある話し方で発表する。	b a c	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
	書き言葉の技術	5 「B書くこと」	「文章トレーニング」 意見文を書く	・比較を用いて論理的に意見文を書く練習をする。 ・互いの意見文を読み比べ、コメントを書く。	b a	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
	実用の文章	5 「B書くこと」	「実用の文章」 文章の構成を工夫して提案する 課題を発見し、解決策を発表する	・課題資料を参考にしながら自分の考えを深め、表現や構成に工夫を凝らして、学習課題に沿って適切に資料を作成する。 ・相手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考慮し、文章の構成や展開を工夫してワークシートにまとめ発表する。	b a c	ワークシート(記述の点検) ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
	定期テスト	1「B書くこと」		・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に適切に表現する。	a、b	記述の確認

計 70時間 (50分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」		B「書くこと」		C「読むこと」	
	20	時間	35	時間	15	時間

7 課題・提出物等

・漢字テストがあります。合格点を目標して学習しましょう。・単元ごとに振り返りシートを記入し、提出することになります。
・週末課題があります。全て記入して、採点し、提出します。・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「現代の国語」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目です。小学校や中学校で学んだ語句の意味・漢字についての知識を活かし、文や文章の構造を意識して、正しく読解できるようになりましょう。また、適切な表現ができるようになりましょう。ここで培う国語の能力は、他教科の学習にも深く関わってきますし、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にしながら、受け身ではなく、自分の力で「話す」「聞く」「書く」活動を通して国語の力を高めていきましょう。

教科（科目）	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年（系列）	1学年
使用教科書	高等学校 言語文化(数研出版)				
副教材等	新訂国語図説（啓隆社）、重要古文単語315（桐原書店）、完全マスター古典文法（第一学習社）、新版完全マスター古典文法準拠ノート（第一学習社）、精選漢文（尚文出版）、精選漢文基本演習ノート（尚文出版）、言語文化の基礎学習（尚文出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
1.生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
2.論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
3.言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

進学、就職等希望進路が多岐にわたっていることから、
1. 基本的な言語事項や語彙の習得、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化についての知識の習得を目指します。
2. 文や文章の構造を理解した上で読解ができるようになることを目指します。
3. 自己の考えを的確に表現し、他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	・ペーパーテストの分析 ・レポートやノート、ワークシート、意見文などの内容の確認 などから評価します。	・ペーパーテストの分析 ・レポートやノート、ワークシート、意見文などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。	・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやノート、ワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。

6 学習計画

考查	単元名 (学習項目)	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	Ⅰ 期 中 間	1 「C読むこと」	言語文化と古文 古文チェックポイント1	・本文を読み、ワークシートにまとめる。	a c	ワークシート(記述の点検) 記述の様子(行動の確認)
		3 「C読むこと」	『宇治拾遺物語』 児のそら寝 古文チェックポイント2、3	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・児と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明する。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		1 「C読むこと」	言語文化と漢文	・本文を読み、漢文の特質や我が国の文化と外国の文化との関係についてワークシートにまとめる。	a c	ワークシート(記述の点検) 記述の様子(行動の確認)
		4 「C読むこと」	入門一 入門二	・作品の内容理解や解釈のための漢文の読み方の練習をする。	a c	ワークシート(記述の点検) 記述の様子(行動の確認)
		1 「書くこと」		・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に解答する。 ・設問の意図を読み取り、適切に表現する。	a、b	記述の確認
	Ⅰ 期 期 末	5 「C読むこと」	羅生門 『今昔物語集』 羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えを文章にする。 ・『羅生門』と『今昔物語集』の差異を見極め、学習課題に沿って考察する。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)

		古文の世界を楽しむ	3 「C読むこと」	『竹取物語』 なよ竹のかぐや姫	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		故事と成語	2 「C読むこと」	『戦国策』 狐借虎威	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品内容を解釈し、学習課題に沿って調査・発表に取り組む。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		定期テスト	1 「書くこと」		・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に解答する。 ・設問の意図を読み取り、適切に表現する。	a、b	記述の確認
	Ⅱ 期 中 間	現代にも生きる教え	4 「C読むこと」	『徒然草』 ある人、弓を射ることを習ふに 丹波に出雲といふ所あり	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		和歌による心の交流	5 「C読むこと」	『伊勢物語』 芥川 東下り	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		論説の文章	2 「C読むこと」	雑説	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		定期テスト	2		・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に解答する。	a、b	記述の確認
		課題テスト	「書くこと」		・設問の意図を読み取り、適切に表現する。		
	後 期	平安宮廷文学の世界	5 「C読むこと」	『枕草子』 雪のいと高う降りたるを	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		仮名日記文学の原点	6 「C読むこと」	『土佐日記』 門出 帰京	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		読み継がれる歴史	4 「C読むこと」	『十八史略』 管鮑之交	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		定期テスト	1 「書くこと」		・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に解答する。 ・設問の意図を読み取り、適切に表現する。	a、b	記述の確認
	年 次 末	詩歌の系譜	5 「C読むこと」	古今和歌集 新古今和歌集	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		戦乱化の人間像	6 「読むこと」	『平家物語』 木曾の最期	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		先人を思う旅	4 「読むこと」	「おくのほそ道」 序 平泉	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		漢詩の言葉	4 「C読むこと」	漢詩	・本文を音読する。 ・本文を読み、ノートにまとめる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題にまとめる。	c a b	音読の様子(行動の確認) ノート(記述の点検) ワークシート(記述の確認)
		定期テスト	1 「書くこと」		・漢字・語彙など基本的知識に関する問題に解答する。 ・設問の意図を読み取り、適切に表現する。	a、b	記述の確認

計 70時間 (60分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」		B「書くこと」		C「読むこと」	
	0	時間	6	時間	古典 44 近代以降の文章20	時間

7 課題・提出物等

・単元ごとに振り返りシートを記入し、提出することになります。 ・毎週末課題があります。全て記入して、採点し、提出します。 ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言語文化」は、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深めることに主眼を置いた科目です。古文や漢文の内容を読み取るために、読み方や文法などの学習もすることになります。近現代の文学的文章も含めて適切に読み取り、現代社会や自分との関連を考え、自分の考えを表現していきましょう。特に古文漢文は予習をすることで授業の理解度がぐんと上がります。受け身ではなく、自分から進んで学習に取り組んでください。1年後の教養豊かな自分を目指して力を伸ばしていきましょう。
--

教科（科目）	地歴（地理総合）	年次	1年次
使用教科書	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		
副教材等	高等学校新地理総合ノート（帝国書院）		

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をおとして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ① 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。 ② 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養います。 ③ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めます。

3 指導の重点

①地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けるとともに、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて学習します。 ②国際理解や国際協力の重要性を認識することを主なねらいとして、特色ある生活文化と地理的環境との関わりや、地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題及び民族問題などの地球的課題の解決の方向性について学習します。 ③さまざまな自然災害に対応したハザードマップなどの地理情報を活用する技能を身に付けるとともに、日本の自然環境の特色、自然災害への備えや対応などについて学習します。また、防災を含めた身近な地域の諸課題についても地域調査の手法を生かしながら学習します。	これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
---	---

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 ○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ○定期考査で、知識と資料活用の技能の習得、思考・判断・表現の状況 ○レポートやワークシート等の内容 ○発表や討論等の様子や内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ○定期考査で、知識と資料活用の技能の習得、思考・判断・表現の状況 ○レポートやワークシート等の内容 ○発表や討論等の様子や内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ○定期考査で、知識と資料活用の技能の習得、思考・判断・表現の状況 ○レポートやワークシート等の内容 ○発表や討論等の様子や内容 などから評価します。

6 学習計画

考査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	1 地図と地図情報システム	8	・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類	a c	定期考査 ワークシート
	I 期 期 末	2 結びつきを強める現代世	14	・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界	a b	定期考査 ワークシート
	II 期 中 間	3 生活文化の多様性と国際理解	12	・世界の地形と人々の生活 ・世界の気候と人々の生活 ・世界の言語・宗教と人々の生活 ・歴史的背景と人々の生活	a b	定期考査 ワークシート
後期	II 期 期 末	4 地球的課題と国際協力	16	・世界の産業と人々の生活 ・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・人口問題 ・食料問題 ・都市・居住問題	a b	定期考査 ワークシート
	年 次 末	5 自然災害と防災 6 生活圏の調査と地域の展望	20	・日本の自然環境 ・災害と防災 ・生活圏の調査と地域の展望	a c	定期考査 ワークシート レポート 発表

7 課題・提出物等

計70時間（50分授業）

○単元ごとに「新地理総合ノート」のワークシートに記入し、提出

○「生活圏の調査と地域の展望」に関するレポートを作成し、提出

8 担当者からの一言

「ところ変われば品変わる、そしてそれは何故か」、場所による違いを認識し、その理由や原因を考えるのが地理の学習です。他（他者・他国・他文化）を理解しようとすることで、自らに対する理解も深まり、新たな扉も開きます。授業以外でも、興味・関心をもった地理的事象が出てきたら、億劫がらずに地図帳や用語集、スマートフォンで調べてみましょう。そして近くにいる人と語り合ってください。

学番19 新潟県立五泉高等学校

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

- ① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。
- ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。
- ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。
- ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。

- ① 総合学科における必履修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。
- ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。
- ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。
- ④ 3年間を見据えた「きらきらずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

進学・就職など進路希望が多岐にわたっていることから、

①基本的な歴史事項の知識の習得を重視し、小テストなどを通じて定着を図る。

②課題を主体的に追究、解決するために、多くの資料を活用し多面的・多角的に考えられ、表現できる力を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本の関係を広く相互的な視野から捉えられる、基本的な知識を身につけている。 ・課題の解決に必要な社会的事象に関する情報を収集し、収集した情報を歴史的な見方や考え方を働かせて分析する技能を身につけている。	・時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在のつながりなど、学んだ知識を活用して多面的、多角的に考察し、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を身につけている。 ・考察、構想したことを効果的に説明したりする力を身につけている。	・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的、多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査で、知識と資料活用の技能の習得、思考・判断・表現の状況 ・レポートやワークシート等の内容 ・発表や討論等の様子や内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査で、知識と資料活用の技能の習得、思考・判断・表現の状況 ・レポートやワークシート等の内容 ・発表や討論等の様子や内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートやワークシート等の内容 ・発表や討論等の様子や内容 などから評価します。

考査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
	I 期 中 間	諸地域世界の形成 第Ⅰ部 近代化と私たち ・第1章 結びつく世界 ・第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ 世界の成立	8	・ 諸地域の地理を踏まえ、前近代の歴史について、中学校での学習内容を振り返り、近代への導入を理解する。 ・ 18世紀の日本やアジア、ヨーロッパが、それぞれどのように結びついていたのか理解する。 ・ 欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会にどのような変化が起こったのか理解する。 ・ 近代化が進む中で、欧米諸国がどのような国家を形成したのかを理解する。	abc	定期考査 ワークシート 小テスト

前期	I 期 期 末	・第3章 明治維新と日本の立憲体制 ・第4章 帝国主義の展開とアジア	14	・近代化した欧米諸国の進出に日本はどのように対応したのか理解する。 ・帝国主義が世界にどのような影響を与えたのか理解する。	abc	定期考査 ワークシート 小テスト
	II 期 中 間	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第5章 第一次世界大戦と大衆社会 ・第6章 経済危機と第二次世界大戦	12	・第一次世界大戦は日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのか理解する。 ・第二次世界大戦が発生することになる原因について、その関係を理解する。	abc	定期考査 ワークシート 小テスト
後期	II 期 期 末	・第7章 戦後の国際秩序と日本の改革 第III部 グローバル化と私たち ・第8章 冷戦と世界経済 第三世界の台頭	16	・第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのかを理解する。 ・冷戦が展開される中で、日本や世界の国々はどのような選択をし、どのような経済成長を遂げたかを理解する。	abc	定期考査 ワークシート 小テスト
	年 次 末	・第9部 グローバル化する世界 ・第10部 現代の課題	20	・冷戦終結後、グローバル化は世界にどのような変化を与えたかを理解する。 ・現代の世界と日本の課題を理解する。	abc	定期考査 ワークシート レポート 発表

7
課題・提出物等
計70時間（50分授業）

- ・単元ごとにワークプリントを提出。
- ・『歴史総合 要点チェック』等を活用し、レポートを作成、提出。

8
担当者からの一言

「歴史」には様々な分野の情報がつまっており、様々な人の失敗や成功が現在につながる出来事を作り上げています。過去の出来事を知ることで、どうしてそれが起こったのか、理由や関係性を考えるヒントとなります。

語句の暗記と思わず、自分におこる身近な問題から現代社会における問題まで考えられる力を身につけると考え、取り組んでください。

令和7年度シラバス（数学）

学番19 新潟県立五泉高等学校

教科（科目）	数学（数学Ⅰ）	単位数	3単位	年次	1年次
使用教科書	数研出版 新編 数学Ⅰ				
副教材等	数研出版 教科書傍用 3TRIAL 数学Ⅰ＋A				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身につける。
- ・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連づけて考察する力を養う。
- ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度と問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

- ・授業を通して、数学的概念の根本原理とその有用性を理解する。
- ・問題演習を通じて、習得した数学的概念のよさを理解し、数学的に表現・処理する技能を身につける。
- ・事象を数学的にとらえ、積極的に活用する態度を育成するために発展問題にも取り組む。
- ・課題学習において、数学的処理の実用性に気づくことで興味・関心を高め、数学的に考察する力を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・無理数を含めた実数の四則演算をすることができる。 ・展開や因数分解など基本的な数式処理ができる。 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 ・2次関数を通して関数概念を理解し、有用性を理解している。 ・三角比の定義を習得し、基本的な計算をすることができる。 ・データの様々な代表値を理解したり、箱ひげ図などを用いてデータの特徴を捉えることができる。また、分散、標準偏差、相関係数など数学的概念を理解することができる。	・数を実数にまで拡張することの意義を理解し、その過程を考察することができる。 ・因数分解の意義を理解し発展的な問題にも取り組むことができる。 ・集合と命題の概念を利用して事象を数学的に処理することができる。 ・グラフをかくことで、関数を視覚的にとらえ、最大値・最小値を求めることができる。 ・三角比を利用して、図形問題が見通しよく解決できることを理解し、積極的に活用することができる。 ・分散、標準偏差、相関係数に基づいて、データを数学的に分析することができる。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	上記の観点の趣旨を踏まえて、定期考査、授業内テストにより評価します。	上記の観点の趣旨を踏まえて、定期考査、授業内テストにより評価します。	上記の観点の趣旨を踏まえて、授業への参加意欲、課題提出により評価します。

6 学習計画

考査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	第1章 数と式 第1節 式と計算 第2節 実数	12	文字式の計算方法を理解し、整式の展開や因数分解ができる。 平方根の定義や性質を理解し、無理数の計算を適切に処理できる。また、数の拡張の様子を正しく理解し、その過程を考察する。	a b c	定期考査 提出課題
	I 期 期 末	第1章 数と式 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ	21	不等号を正しく理解し、数量の大小関係を不等式として表現できる。 逆に、大小関係を表す不等式を解くことで未知数の範囲を求めることができる。 集合概念を用いて、事象の論理構造を理解する。 抽象的な関数概念をグラフにより視覚的にとらえることの意義を学ぶ。	a b c	定期考査 提出課題
	II 期 中 間	第3章 2次関数 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式 課題学習	18	2次関数の最大値・最小値など具体的な数理現象をグラフを描くことで見通しよく処理できることを学ぶ。2次関数の零点として2次方程式の意義を理解し、2次不等式の解法にも応用していく。 身近な2次関数に触れ、関数の有用性を理解し、考察を深める。	a b c	定期考査 提出課題
後期	II 期 期 末	第3章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	24	三角比を定義することで様々な図形問題を見通しよく解決できることを理解する。三角比の定義を拡張することで数学概念が広がっていく過程を考察する。測量問題にも応用し、数学的な表現・処理の有用性を理解する。	a b c	定期考査 提出課題
	年 次 末	第5章 データの分析 課題学習	30	与えられたデータの平均値、中央値、最頻値などの代表値の意味を理解し、データの特徴を適切にとらえることができる。また、分散、標準偏差、相関係数などの数学的概念を学び、データの特徴を数値化することの意義を理解する。 各自が取り組む探究活動において、自分の仮説をデータから数的根拠を捉えることで、仮説の妥当性を考察する。	a b c	定期考査 提出課題

計105時間（50分授業）

7 課題・提出物等

週末課題、考査前課題、長期休暇課題、発展的課題

8 担当者からの一言

数学は、積み重ねの学習です。たった1つの疑問点をそのままにしておくと1週間後には、「まったくわからない状態」になってしまいます。わからない所や苦手分野は放置せず、早めに「手当て」しましょう。授業だけ受けていても「数学」は身につけません。授業で学んだことを繰り返し練習することが必要です。毎日1時間以上の家庭学習が必要となります。
--

令和7年度シラバス（理科）

学番19 新潟県立五泉高等学校

教科（科目）	理科（科学と人間生活）	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	高等学校 科学と人間生活(第一学習社)				
副教材等	ネオパルノート 科学と人間生活（第一学習社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

3 指導の重点

・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について学習し、興味・関心を高めさせる。 ・身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。 ・科学的な見方や考え方を働かせて、身近な事物・現象に関する観察・実験などを行い、論理的に考える力を身に付けさせる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象を人間生活と関連付けて、問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	(1)課題プリントの取組、理解度 (2)問題集の取組、基本的事項の理解 (3)実験の準備と操作の理解 (4)定期考査・小テスト などから総合的に評価します。	(1)課題プリントの取組、理解度 (2)問題集の取組、応用的事項の理解 (3)実験レポートの考察 (4)定期考査・小テスト などから総合的に評価します。	(1)授業の取組状況（授業態度・発問評価・授業ノート） (2)課題プリントや問題集の提出状況 (3)実験への取組状況 などから総合的に評価します。

6 学習計画

考 査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	微生物とその利用 1 身近な微生物 2 微生物の発見 3 生態系内の微生物① 4 生態系内の微生物② 5 微生物の利用 6 食品と微生物① 7 食品と微生物② 8 医薬品と微生物 9 微生物の利用の広がり	18	①微生物と人間生活とのかかわりについて学習する。② 微生物の発見の歴史、微生物の発見、自然発生説の否定、病原菌の発見、ウイルスの発見の研究について、科学的、論理的に理解する。③森林内の微生物の分解作用について、学習する。④炭素と窒素の循環を通して微生物による自然浄化を理解し、人間生活における微生物の分解作用の利用について論理的に理解する。⑤発酵食品の製造に利用される微生物を理解し、発酵技術と人間生活とのかかわりについて理解する。また、微生物のはたらきによってできることを思考する。また、実験を通して、アルコール発酵と乳酸発酵の現象を理解する。⑥抗生物質の発見やワクチンの開発の研究を学習することで、微生物によってつくられた医薬品が人間生活にどのように貢献してきたか科学的に理解する。⑦エネルギー資源の生産や環境浄化における微生物の利用などの学習を通して、微生物の有効活用と人間生活のあり方について理解する。	(a) (b) (c)	(1)授業の取組状況（授業態度・発問評価・授業ノート） (2)課題プリント (3)問題集 (4)実験レポート (5)定期考査・小テスト
	I 期 末	熱の性質とその利用 1 温度と熱運動 2 熱容量と比熱① 3 熱容量と比熱② 4 熱の伝わり方 5 仕事や電流と熱の発生 6 エネルギーの移り変わり 7 エネルギー資源の有効活用 自然景観と自然災害 1 日本列島の成り立ち 2 火山活動と地表の変化 3 火山災害と防災 4 地震活動と地表の変化 5 地震災害と防災	28	①セルシウス温度や絶対温度を理解し、熱運動の知識を身につけている。②熱平衡の現象と物体の熱容量と比熱について、実験を通して理解する。③熱伝、対流、熱放射などのしくみについて、実験などを通して理解する。また、水の状態変化と潜熱の概念について知識を習得する。④仕事とエネルギーと関係、ジュール熱と電力の関係について、物理式を用いながら理解する。⑤さまざまなエネルギーの形態やエネルギー保存の法則について、関心をもって学習する。⑥可逆変化と不可逆変化について理解し、熱機関、永久機関の学習を通して、熱はすべて仕事に変えられないことを科学的に理解する。⑦ハイブリッドカーの開発などの省エネルギーの試みや、太陽光や風力、地熱などの代替エネルギーの開発について、関心をもって知識を習得する。 ①身のまわりにある景観に関心をもち、日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解する。②日本列島の火山に興味を抱き、火山の噴火によって噴き出す噴出物、火山の噴火がおこる原因、火山の形とマグマの関連性、および日本の火山活動について、論理的に思考する。③火山の災害と防災について意欲的に学習する態度を示し、火山の噴火によって直接および間接被害や二次災害、火山噴火の予知と防災について、科学的・論理的に理解し、的確に表現できる。④日本の地震に関心をもち、地震の発生のしくみや、日本列島の地震活動とプレートとの関連性について、科学的に理解する。⑤地震災害と防災について、意欲的に学習する態度を示し、地震が直接および被害や地震による二次災害、地震の予知と防災について、科学的に理解する。	(a) (b) (c)	(1)授業の取組状況（授業態度・発問評価・授業ノート） (2)課題プリント (3)問題集 (4)実験レポート (5)定期考査・小テスト
	II 期 中 間	6 水のはたらきと地表の変化① 7 水のはたらきと地表の変化② 8 気象災害と防災 材料とその利用 1 プラスチックの特徴 2 プラスチックの分類と用途① 3 プラスチックの分類と用途② 4 様々なプラスチック 5 金属と人間生活 6 金属の精錬① 7 金属の精錬② 8 金属のさびと合金 9 資源の再利用① 10 資源の再利用②	24	⑥身近にある河川や湖沼、海に興味をもち、河川のはたらきや海水のはたらきによって形成された地形について、科学的にその形成のようすを表現できる。⑦気象災害と防災について関心をもち、豪雪、台風、集中豪雨、土砂災害など、日本列島で見られる気象災害の特徴とそれがおこるしくみについて、科学的に理する。また、土砂災害の防災について、論理的に思考できる。 ①わたしたちの身のまわりにあるプラスチックの特徴と、プラスチックの原料について、理解する。②プラスチックやその原料となる物質は、おもに炭素原子と水素原子からなる有機物であることの理解する。③プラスチックの性質と用途について、実験・観察などを通して思考する。④プラスチックを熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂に分類することができる。⑤高吸水性樹脂、導電性樹脂、光透過性樹脂、生分解性プラスチックなどの新しいプラスチックの性質や用途について理解する。⑥金属の利用の歴史から、金属結合とそれにもとづく金属の性質を学習する。⑦鉄について、その性質や製錬方法、利用法などについて理解する。⑧アルミニウムと銅について、その性質や製錬方法、利用法などを、実験・観察を通して科学的に理解する。⑨ 資源の再利用方法に関心を抱き、特にプラスチックがどのように再利用されているかを理解している。⑩金属とガラスの再利用を学び、再利用の必要性について科学的に認識する態度を身につけている。	(a) (b) (c)	(1)授業の取組状況（授業態度・発問評価・授業ノート） (2)課題プリント (3)問題集 (4)実験レポート (5)定期考査・小テスト

7 課題・提出物等

計 70時間（50分授業）

- ・実験や観察後のレポートなどの提出。
- ・考査後、授業ノートと副教材（問題集）の提出。
- ・教科担当から指示された課題の提出。

8 担当者からの一言

・理科の基本的な事柄や科学が人間生活に果たしてきた役割を学ぶ科目が「科学と人間生活」です。興味を持って学習することにより、さらなる興味が湧くはずです。理科アレルギーをおこさず、最初から意欲的に授業に臨んでください。

令和7年度シラバス（理科）

学番19 新潟県立五泉高等学校

教科（科目）	理科（化学基礎）	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	高等学校 新化学基礎（第一学習社）				
副教材等	ネオバルノート化学基礎（第一学習社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
--

3 指導の重点

(1) 化学の基本となる概念や原理・法則は抽象化された形で与えられているが、単に記憶するだけでなく、具体的な性質や反応と結びつけて理解し、それらを活用する力を身につける。 (2) 物質とその変化を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、データの分析などの探究の方法を身につける。 (3) 物質とその変化に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を身につける。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	(1)課題プリントの取組、理解度	(1)課題プリントの取組、理解度	(1)授業の取組状況（授業態度・発問評価・授業ノート）
	(2)問題集の取組、基本的事項の理解	(2)問題集の取組、応用的事項の理解	(2)課題プリントや問題集の提出状況
	(3)実験の準備と操作の理解	(3)実験レポートの考察	(3)実験への取組状況
	(4)定期考査・小テスト	(4)定期考査・小テスト	
	などから総合的に評価します。	などから総合的に評価します。	などから総合的に評価します。

6 学習計画

考查	単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
II 期 期 末	化学と人間生活 物質の構成 物質とその構成要素 ①物質の分離②物質を構成する元素③ 元素の確認④物質の三態⑤原子のなり たち⑥同位体とその利用⑦原子の電子 配置⑧元素の周期律と周期表	32	①身近な物質に注目し、これらの物質の性質を調べる活動を通して、科目の導 入として、化学への興味・関心を高めさせる。 ②物質が混合物と純物質、および単体と化合物に分けられることを理解し、そ れらの違いを理解する。また、観察・実験を通して、それらを考察し、それぞ れの特徴が説明できる。③混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解す る。④粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係によって、状態が変化すること を理解する。⑤原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。⑥原 子の電子配置を理解し、原子番号20番までの元素をモデルで表すことができ る。⑦原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	(a) (b) (c)	(1)授業の取組状況（授 業態度・発問評価・授業 ノート） (2)課題プリント (3)問題集 (4)実験レポート (5)定期考査・小テスト
	化学結合 ①イオン②イオン結合③イオンからな る物質④共有結合⑤分子の極性⑥分子 間に働く力⑦分子からなる物質⑧共有 結合の結晶⑨金属結合と金属結晶		①イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオンの表し方やイオン化エ ネルギーについての知識を身に付ける。②イオン結合やイオン結合でできた物 質の性質を理解し、知識を身に付ける。③共有結合を電子配置と関連付けて理 解し、共有結合の表し方や配位結合についての知識を身に付ける。④電気陰性 度や結合の極性を理解し、分子の極性についての知識を身に付ける。⑤共有結 合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付ける。⑥金属結合や金属結晶の 性質について理解し、知識を身に付ける。⑦イオン結晶の性質をイオンやイ オン結合にもとづいて説明できる。⑧分子の極性を電気陰性度や結合の極性、分 子の形をもとに総合的に判断できる。⑨物質の性質を調べる実験を通して、化 学結合と結晶の性質の関係を考察できる。		
後 期	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量②分子量・式量③物質と粒 子の数④物質と質量⑤物質と気体 の体積③溶解と濃度④化学反応式⑤化 学反応の量的関係	38	①原子量・分子量・式量を理解している。②物質が粒子の数にもとづく量で あることを理解し、また物質と質量、気体の体積との関係も理解する。③物 質量を介して、物質の質量や気体の体積を相互に変換できる。④モル濃度を理 解し、濃度から溶質の物質量を求めることができる。また、濃度変換できる。 ⑤化学変化と物理変化の違いを理解し、化学反応を化学反応式で表すことが できる。⑥物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を身に付けてい る。⑦化学変化において、量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をも とに物質の量的関係が判断できる。⑧化学反応の量的関係の実験から、自らの 考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。	(a) (b) (c)	(1)授業の取組状況（授 業態度・発問評価・授業 ノート） (2)課題プリント (3)問題集 (4)実験レポート (5)定期考査・小テスト
	酸・塩基とその反応 ①酸と塩基②酸・塩基の強弱③水素イ オン濃度とpH④pHの測定⑤中和と塩 ⑥中和の量的関係⑦中和滴定⑧中和滴 定曲線		①酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱で分類することが できる。②水溶液の性質(酸性・中性・塩基性)と水素イオン濃度とpHとの関係 を理解する。③中和反応を理解し、塩のなりたちや塩の水溶液の性質を説明で きる。④中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求めることができ る。⑤中和滴定の実験を通じて、操作や中和滴定曲線を理解し、実験器具の適 切な取り扱いやグラフの見方などの知識を身に付けている。⑥酸・塩基の観 察、実験から共通性を見だし、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付 けて考察できる。		
	酸化還元反応 ①酸化と還元②酸化数③酸化剤と還元 剤 ④金属のイオン化傾向⑤金属の反応性 ⑥電池⑦電気分解 終章 化学が拓く世界 ①水道水②食品の保存③洗剤④リサイ クル		①酸化・還元の定義を理解する。②酸化数の増減によって酸化還元反応を判断 することができる。③酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに 酸化還元反応を組み立てることができる。④酸化還元反応の量的関係を理解し ている。⑤金属のイオン化傾向や金属の反応性を理する。⑥酸化還元反応の利 用例として、電池や電気分解について、その基本的な知識を身に付けている。 ⑦代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見だし、 自らの考えで表現できる。⑧観察、実験を通して、酸化還元反応を論理的に考 察できる。⑨燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受と いう観点から、それらを意欲的に探究しようとする。⑩「化学基礎」で学んだ 事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解す る。⑪「化学基礎」で学んだ事柄が日常生活や社会でどのようにいかされてい るかを教科書の題材以外にも範囲を広げて考察する。		

7 課題・提出物等

計 70時間（50分授業）

- ・実験や観察後のレポートなどの提出。
- ・考査後、授業ノートと副教材（問題集）の提出。
- ・教科担当から指示された課題の提出。

8 担当者からの一言

- ・化学は「物質」について探求する学問です。「化学基礎」ではまず化学の基本である原子の構造・化学反応式・モルの概
念を習得し、このあと続く「化学」で幅広い知識を習得できるよう、基礎基本を徹底的に学習することが大切です。
- (1)日々の授業を大切に・・・授業は集中力を維持してください。単なる黒板の板書ではなく、また、教えあい学びあいの機
会を多くとります。積極的に話し合いに参加してください。
- (2)問題演習は計画的に・・・化学基礎の理解には問題演習が必須です。問題集や課題プリントの提出を課します。

令和7年度シラバス（保健体育）

学番19 新潟県立五泉高等学校

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1 年次は共通の科目を学び、2 年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3 系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3 系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3 年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 （2）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 （3）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 指導の重点

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ・技能の観察 ・スキルテスト ・体育理論（知識確認） ・体育学習カード（内容確認） などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・仲間との会話、コミュニケーション等の観察 ・体育学習カード（内容確認） などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・自発的行動等の観察 ・体育学習カード（内容確認） などから評価します。

6 学習計画

考査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	Ⅰ 期 中 間	・オリエンテーション ・体づくり運動 ・領域選択Ⅰ器械運動 （マット） 陸上競技 （走種目） ダンス （現代的リズム）	2 6	・科目及び授業内容の説明、諸連絡、諸注意 ・体ほぐしの運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力に応じた運動計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ・マット運動を通して自己の能力に応じて「技を習得すること」と「技を円滑にできること」を主なねらいとし、技の達成や演技の出来栄に楽しさや喜びを体感する。 ・合理的なフォームを身に付けより速く走れることをねらいとし、自己の記録を向上させるための技能向上を図り、記録向上の喜びや競争の楽しさを体感する。 ・リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けてリズムに乗って踊れることをねらいとし、リズムに合わせて体幹部を中心に全身で自由に弾んで踊ることができるようにする。	・bc ・abc	・技能観察 ・コミュニケーション等の観察 ・自発的行動等の観察 ・体育理論（知識確認） ・体育学習カード（内容確認） ・スキルテスト ・出席状況
	Ⅰ 期 期 末	・領域選択Ⅱ器械運動 （マット） 陸上競技 （投、跳種目） ダンス （現代的リズム） ・体育理論	12 2	・マット運動を通して自己の能力に応じて「技を習得すること」と「技を円滑にできること」を主なねらいとし、技の達成や演技の出来栄に楽しさや喜びを体感する。 ・合理的なフォームを身に付けより速く走れることをねらいとし、自己の記録を向上させるための技能向上を図り、記録向上の喜びや競争の楽しさを体感する。 ・リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けてリズムに乗って踊れることをねらいとし、リズムに合わせて体幹部を中心に全身で自由に弾んで踊ることができるようにする。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴について理解できるようにする。（現代高等保健体育教科書使用）	・abc ・ab	
	Ⅱ 期 中 間	・領域選択Ⅰベースボール型 （ソフトボール） ネット型 （テニス） ゴール型 （サッカー）	12	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への進入などから攻防を展開する。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開する。	・abc	
後期	Ⅱ 期 期 末	・領域選択Ⅱネット型 （バレーボール） ネット型 （バドミントン） ゴール型 （バスケットボール） ネット型 （卓球） ・体づくり運動	14 2	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への進入などから攻防を展開する。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ・体ほぐしの運動、体力を高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力に応じた運動計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。	・abc ・abc ・bc	
	年 次 末	・領域選択Ⅲネット型 （バレーボール） ネット型 （バドミントン） ゴール型 （バスケットボール） ネット型 （卓球） ・体づくり運動	18 2	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への進入などから攻防を展開する。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴について理解できるようにする。（現代高等保健体育教科書使用）	・abc ・ab	

7 課題・提出物等

計70 時間（50分授業）

- ・単元ごとに体育学習カードを記入し、提出することとなります。
- ・単元に対する体育理論（知識確認プリント）があります。

8 担当者からの一言

「生きる力」を構成する「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の3つの項目を養える教科です。
生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するためには、安全を確保する中で運動に親しみ、楽しみを味わうことが重要になります。
集団でのルールを守り、主体的に実践していきましょう。

令和7年度シラバス（保健体育）

学番19 新潟県立五泉高等学校

教科（科目）	保健体育（保健）	単位数	1単位	年次	1年次
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
副教材等	現代高等保健体育ノート（大修館書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

保健の見方・考えを働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- （1）個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- （2）健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- （3）生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、様々な健康への対策、健康増進のあり方を理解し、一人一人が健康に関して深い知識を持ち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題に関して理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習カードの内容確認 ・ノート等の提出物の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表等への取り組みを観察 ・学習カードの内容確認 ・ノート等の提出物の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表等への取り組みを観察 ・学習カードの内容確認 ・ノート等の提出物の確認 などから、評価します。

6 学習計画

考査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	1単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復	4	・健康を成り立たせている要因について理解できるようにする。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について理解できるようにする。 ・わが国の現在の健康問題について理解できるようにする。 ・生活習慣病の種類と要因について理解できるようにする。	abc	・定期考査の分析 ・学習カードの確認 ・ノート等の提出物 ・授業中の発言、発表等への取り組みを観察
	I 期 期 末	4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	7	・生活習慣およびがんの一次予防、二次予防について理解できるようにする。 ・がんの種類や原因について理解できるようにする。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて理解できるようにする。 ・健康と運動・食事の関係について理解できるようにする。 ・健康的な食事のとり方について理解できるようにする。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について理解できるようにする。	abc	
	II 期 中 間	9 喫煙と健康 1 0 飲酒と健康 1 1 薬物乱用と健康 1 2 精神疾患の特徴 1 3 精神疾患の予防 1 4 精神疾患からの回復	6	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解できるようにする。 ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を理解できるようにする。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解できるようにする。 ・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について理解できるようにする。 ・精神疾患を予防する方法、早期発見について理解できるようにする。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か理解できるようにする。	abc	
後期	II 期 期 末	1 5 現代の感染症 1 6 感染症の予防 1 7 性感染症・エイズとその予防 1 8 健康に関する意思決定・行動選択 1 9 健康に関する環境づくり 2単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因	8	・感染症とは何か、新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ理解できるようにする。 ・感染症の予防対策についての3原則を理解できるようにする。 ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解できるようにする。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について理解できるようにする。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について理解できるようにする。 ・事故の実態と被害の実態、事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを理解できるようにする。	abc	
	年 次 末	2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	10	・安全のために必要な個人の行動について、すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について理解できるようにする。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて理解できるようにする。 ・応急手当の意義を理解し、傷病者を発見したとき、確認・観察するポイントをあげることができるようになる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解し、実際に日常的なけがや熱中症の応急手当ができるようになる。 ・心肺蘇生法の方法と手順を理解し、実際に心肺蘇生法を行うことができるようになる。	abc	

計 3 5 時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに学習カードを記入し、提出することとなります。
- ・単元に対するノート（副教材）への記述（知識確認）があります。

8 担当者からの一言

保健を通して、健康についての基礎的な知識と現代社会におけるわが国の疾病構造などを理解することが大切です。社会の変化にともなって、健康と安全の問題も日々変化していきます。さまざまに変化する健康問題に適切な対処するために、自分が何を身につけて実践していくべきかを学習し、行動に移してほしいと願っています。

教科（科目）	外国語（英語コミュニケーションⅠ）	単位数	3 単位	年次	1 年次
使用教科書	Big Dipper English CommunicationⅠ（数研出版）				
副教材等	Big Dipper English communicationⅠ WORKBOOK（数研出版）ブレッピングリッシュReading（旺文社） チャックで英単語Basic（三省堂）チャックで英単語Basic アプリ（三省堂） ことまな辞書（三省堂）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1 年次は共通の科目を学び、2 年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの 3 系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3 系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3 年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の 5 つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。 （1）聞くことー 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 （2）読むことー 日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。 （3）話すこと[やり取り]ー 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 （4）話すこと[発表]ー 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。 （5）書くことー 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができる。	
--	--

3 指導の重点

①基本的な英語の語彙、表現、文法の習得を目指します。
②英文を読んだり、聞いたりしたことを理解し、その内容について自分の考えを確立させ、英語で表現できることを目指します。
③英語を用いて積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。（知識）聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。（技能）	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
	・ペーパーテスト ・ワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・パフォーマンステスト、活動観察 などから、評価します。	・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシート などから、評価します。	・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシート などから、評価します。

6 学習計画

考查	単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
I 期 中 間	Introduction 1	3	辞書の使い方と、英語の発音・アクセントを学ぶ。	(a) (b) (c)	・活動観察 ・パフォーマンステスト ・課題の提出 ・ペーパーテスト
	Lesson 1 Have a Good Day with a Good Breakfast	9	〈聞くこと〉朝食に関する英文を聞き、その内容を理解する。〈読むこと〉英文を読んで、朝食の大切さ、レシピ特有の表現を理解する。〈話すこと [やり取り] 〉聞いたり読んだりしたことについて話し合う。〈話すこと [発表] 〉聞いたり読んだりしたことについて、理由を示して自分の考えを言う。〈書くこと〉バランスの良い朝食について、自分の考えを書く。 ・過去形・現在形・未来形／現在完了／現在進行形／命令文		

前期	Ⅰ 期 期 末	Lesson 2 A Mascot with a Mission	9	〈聞くこと〉町おこしや日本のマスコット文化に関する英文を読み、その内容を理解する。〈読むこと〉英文を読んで、ゆるキャラの役割等について理解する。新聞記事を読み、くまモンの活動について理解する。〈話すこと〔やり取り〕〉ゆるキャラについて、自分の考えを伝え合う。〈話すこと〔発表〕〉聞いたり読んだりしたことについて、理由を示して自分の考えを言う。〈書くこと〉絵を見て、そこに描かれている状況を書く。	(a) (b) (c)	・活動観察 ・パフォーマンステスト ・課題の提出 ・ペーパーテスト
		Grammar for Expression 1	2	・文型①〈SVC〉〈SVO〉／不定詞〈to+動詞の原形〉／動名詞 ・本文で扱った文法事項を用いて、質問に答えたり、正しい英文を書く。		
Ⅱ 期 中 間		Lesson 3 Two Kinds of Leadership	10	〈聞くこと〉リーダーシップに関する英文を読み、内容を理解する。〈読むこと〉本文の内容を読み、概要や要点を把握する。〈話すこと〔やり取り〕〉2種類のリーダーシップについて、話し合う。〈話すこと〔発表〕〉学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す。〈書くこと〉学級委員長になったらやりたいことについて、理由を示して書く。	(a) (b) (c)	・活動観察 ・パフォーマンステスト ・課題の提出 ・ペーパーテスト
		Grammar for Expression 2	2	・受動態〈be動詞+過去分詞〉／関係代名詞 who/which/that／文型②〈SVO102〉〈SVOC〉		
		Lesson 4 Older Sports and Newer Sports	8	〈聞くこと〉スポーツに関する英文を読み、その内容を理解する。〈読むこと〉英文を読んで、スポーツの歴史や魅力を理解する。ブログを読み、最新のスポーツについて考える。〈話すこと〔やり取り〕〉団体競技と個人競技について、自分の考えを伝え合うことができる。〈話すこと〔発表〕〉聞いたり読んだりしたことについて、理由を示して自分の考えを言う。〈書くこと〉eスポーツがスポーツかどうかについて、理由を示して自分の考えを書く。	(a) (b) (c)	・活動観察 ・パフォーマンステスト ・課題の提出 ・ペーパーテスト
		Lesson 5 AI Meets the Arts	8	・最上級〈the+最上級〉／比較級〈比較級+than〉／原級〈as+原級+as〉 ・本文で扱った文法事項を用いて、質問に答えたり、正しい英文を書く。		
後期	Ⅱ 期 期 末	Lesson 6 What is Happiness?	11	〈聞くこと〉AIに関する英文を読み、内容を理解する。〈読むこと〉AIによる芸術についての英文を読み、概要や要点を把握する。〈話すこと〔やり取り〕〉聞いたり読んだりしたことについて、話し合う。〈話すこと〔発表〕〉聞いたり読んだりしたことについて、理由を示して自分の考えを言う。〈書くこと〉AIによる芸術について、理由を示して自分の考えを書く。	(a) (b) (c)	・活動観察 ・パフォーマンステスト ・課題の提出 ・ペーパーテスト
		Grammar for Expression 3	2	・名詞を修飾する分詞／形式主語〈It is ~that...〉〈It is ~(for A) to do...〉		
		Lesson 7 The Maldives: A Dream Destination?	11	〈聞くこと〉幸福度に関する英文を読み、その内容を理解する。〈読むこと〉図表とあわせて英文を読み、日本と世界の幸福度について理解する。〈話すこと〔やり取り〕〉聞いたり読んだりしたことについて、話し合う。〈話すこと〔発表〕〉聞いたり読んだりしたことについて、理由を示して自分の考えを言う。〈書くこと〉幸せを感じる方法について、自分の考えを書く。	(a) (b) (c)	・活動観察 ・パフォーマンステスト ・課題の提出 ・ペーパーテスト
		Lesson 8 Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream	10	・過去完了〈had+過去分詞〉／関係副詞where・when ・本文で扱った文法事項を用いて、質問に答えたり、正しい英文を書く。		
年次末		Lesson 9 From Recycle to Upcycle	10	〈聞くこと〉人気の観光地に関する英文を読み、その内容を理解する。〈読むこと〉英文を読んで、モルディブが抱える問題について理解する。新聞記事を読み、日本の観光地が抱える問題を理解する。〈話すこと〔やり取り〕〉聞いたり読んだりしたことについて、話し合う。〈話すこと〔発表〕〉聞いたり読んだりしたことについて、理由を示して自分の考えを言う。〈書くこと〉ミサキのメッセージを想像して書く。	(a) (b) (c)	・活動観察 ・パフォーマンステスト ・課題の提出 ・ペーパーテスト
		Lesson 10 Diversity at Japanese Companies	10	・SVOC／SVO+to-不定詞 ・観光公害の解決法を書く。		
		Lesson 8 Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream	10	〈聞くこと〉人生の夢や名言に関する英文を読み、その内容を理解する。〈読むこと〉Kazu Hiroがどのようにして夢を叶えたのかを理解する。プレゼンテーションの内容を読み、話し手が伝えたいことを理解する。〈話すこと〔やり取り〕〉聞いたり読んだりしたことについて、話し合う。〈話すこと〔発表〕〉聞いたり読んだりしたことについて、理由を示して自分の考えを言う。〈書くこと〉Kazu Hiroが書いた手紙を想像して書く。好きな名言について書く。	(a) (b) (c)	・活動観察 ・パフォーマンステスト ・課題の提出 ・ペーパーテスト
		Lesson 9 From Recycle to Upcycle	10	・関係副詞how・why／関係代名詞what／強調構文〈It is ~that...〉 〈聞くこと〉ゴミの再利用に関する英文を読み、その内容を理解する。〈読むこと〉本文の内容を読み、概要や要点を把握する。〈話すこと〔やり取り〕〉聞いたり読んだりしたことについて、話し合う。〈話すこと〔発表〕〉聞いたり読んだりしたことについて、理由を示して自分の考えを言う。〈書くこと〉ゴミを減らすために心がけていることを書く。		
		Lesson 10 Diversity at Japanese Companies	10	・つなぎ表現／分詞構文①「～するとき」／間接疑問文／現在完了進行形 〈聞くこと〉雇用の多様性に関する英文を読み、その内容を理解する。〈読むこと〉英文を読んで、日本企業のさまざまな取り組みについて理解する。求人広告から情報を正しく読み取る。〈話すこと〔やり取り〕〉聞いたり読んだりしたことについて、話し合う。〈話すこと〔発表〕〉聞いたり読んだりしたことについて、理由を示して自分の考えを言う。〈書くこと〉女性の就業状況について、理由を示して自分の考えを書く。	(a) (b) (c)	・活動観察 ・パフォーマンステスト ・課題の提出 ・ペーパーテスト
				・仮定法過去／分詞構文②「～して、そして…」／過去の習慣would 助動詞+be+過去分詞		

7 課題・提出物等	計105時間（60分授業）
・ 毎週単語テストや週末課題があります。 ・ 考查ごとに、付属のワークブックの提出があります。 ・ 考查ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。	

8 担当者からの一言
「英語コミュニケーション」は、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる英語の技能を養うことを目標とする科目です。英語の知識や技能を身につけ、英語の背景にある他国の文化や考え方を理解し、情報や考えを他者に適切に伝えるコミュニケーション能力の育成を目指します。授業を通して4技能をバランスよく身につけましょう。予習→授業→復習のサイクルを継続することで、学習習慣や基礎・基本を身に付けることが大切です。着実に英語を習得し、大学入試に対応できる英語力を定着させていきましょう。

令和7年度シラバス（情報）

学番19 新潟県立五泉高等学校

教科（科目）	情報（情報Ⅰ）	単位数	2 単位	学年	1 学年
使用教科書	（実教7 情Ⅰ705）最新情報Ⅰ				
副教材等	最新情報Ⅰ学習ノート オンライン学習教材「ライフイズテックレッスン」（実教出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

（1）効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにします。

（2）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養います。

（3）情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養います。

3 指導の重点

実習や作業については、教員からの説明を聞いた後に主体的に学習を進めます。個人作成レポートや、グループで話し合った結果の発表などの実習をおこないます。これらの活動において、情報をインターネット上で検索したり、文書処理や表計算などのソフトウェアを利用したりすることで、情報活用能力の向上を図る。また、説明をした内容の理解度を小テストなどで確認します。

情報Ⅰの学びの中心には、情報技術を活用した問題の発見と解決があり、その手段として、情報デザイン、プログラミング、データサイエンスの内容があると考えられることもできます。そのため、実習を行う際には、問題解決の全体または一部の活動であることを意識する必要があります。また、授業の中で課題を一齐に学習するよりも、個々の生徒のペースで自由に実習を進めるほうが、生徒自身の理解度や授業に対する満足度から、主体的な学習につながると考えられるため、実習にはライフイズテックの教材を使用します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能（a）	思考・判断・表現（b）	主体的に学習に取り組む態度（c）
評価方法	・学習ノート ・小テスト ・定期考査 - など	・発表態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査 - など	・授業態度 ・課題提出 ・相互評価 - など

6 学習計画

考査		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	オリエンテーション 第1章 情報社会と私たち 1 情報社会 2 情報社会の法規と権利 3 情報技術が築く新しい社会	8	中学校までの学習、経験等既習内容の調査を行う。 コンピュータの起動や終了の方法、OSの基本操作について練習する。 ファイルの保存、読み込み、共有フォルダの利用方法について理解する。 コンピュータ教室の使い方を理解する。 情報社会の現状、特性について理解する。情報化が及ぼす影響を理解する。 知的財産権について理解する。人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 社会の中で活用されている情報技術について理解する。	(a) (c) (b)	授業態度 発問評価 学習プリント 学習ノート 小テスト
	I 期 期 末	第2章 メディアと情報デザイン 1 メディアとコミュニケーション 2 情報デザイン 3 情報デザインの実践	14	メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る。 メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択できる。 コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。 社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。 プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 Webページ作成の方法について理解する。	(a) (c) (b)	学習プリント 学習ノート 発表態度 課題提出 相互評価 定期考査
	II 期 中 間	第3章 システムとデジタル化 1 情報システムの構成 1 コンピュータの構成と動作 2 ソフトウェアとインターフェース 2 情報のデジタル化 1 アナログとデジタル 2 2進数と情報量 3 演算の仕組み 4 数値と文字の表現 5 数値の計算 6 音声の表現 7 静止画と動画の表現 8 情報のデータ量	12	コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。 アナログとデジタルの違いについて理解する。2進数と情報量の関係について理解する。コンピュータの演算の仕組みを理解する。数値や文字をデジタル化する方法を理解する。コンピュータでの数値の計算方法について理解する。音声をデジタルで表現する方法について理解する。静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。情報のデータ量を小さくする方法について理解する。	(a) (b)	発問評価 学習プリント 学習ノート 小テスト
後期	II 期 期 末	第4章 ネットワークとセキュリティ 1 情報通信ネットワーク 2 情報セキュリティ 第5章 問題解決とその方法 1 問題解決 2 データの活用 3 モデル化 4 シミュレーション	16	情報通信ネットワークの構成について理解する。 脅威に対する様々な安全対策について理解する。情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。 問題解決の手順について理解する。解決案を検討したり、整理・分析したりする方法について理解する。実行した解決案を評価する方法について理解する。 データを収集したり、整理したりする方法について理解する。 モデル化の意味について理解する。 シミュレーションの意義について理解し、確率的モデルのシミュレーションを行う。	(a) (b)	発問評価 学習プリント 学習ノート 課題提出 定期考査
	年 次 末	第6章 アルゴリズムとプログラミング 1 プログラミングの方法 2 プログラミングの実践 3 探索と整列のプログラム	20	アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 変数を使用したプログラムを作成する。 関数を使用したプログラムを作成する。 多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。	(a) (c) (b)	授業態度 相互評価 課題提出 定期考査

7 課題・提出物等

70時間（50分授業）

・課題 プレゼンテーションソフト、ワープロソフト、ペイント系ソフト等を使用したレポート作成など
・提出物 学習プリント、学習ノート、デジタル課題など

8 担当者からの一言

集中して意欲的に学ぼうという姿勢で授業に参加すれば、しっかりと力が身につく内容になっています。情報に関する学習を進めるためには、専門的な用語の理解、計算能力、思考判断能力などが必要となりますが、何よりも情報に関心を持ち、意欲的に学ぼうという気構えが大切です。これからさらに進歩するであろう情報社会に対応していくための基礎基本をしっかりと身につけていきましょう。
--

令和7年度シラバス(産業社会と人間)

学番19 新潟県立五泉高等学校

教科(科目)	産業社会と人間	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	準教科書 産業社会と人間 (五泉高等学校キャリアガイダンス部)				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 良識ある社会人として社会に貢献するために、主体性・自律性を育成します。 ② 多様な進路に対して、自己実現を目指し、自らの将来を設計していく力を育成します。 ③ 情報化、国際社会の中で、高い知性を持ち課題を解決していく能力を育成します。 ④ 他者との共生社会の中で、多様な考えや価値観を尊重する豊かな心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 総合学科における必修科目である「産業社会と人間」を設置するとともに、多様な科目選択制の教育課程を編成します。 ② 1年次は共通の科目を学び、2年次から人文科学、自然科学、総合ビジネスの3系列に分かれ、それぞれの系列で選択科目を柔軟に編成し、一人一人の進路に応じた学習を行います。 ③ 3系列のいずれにおいても、大学進学を目指したきめ細かな学習指導を行います。 ④ 3年間を見据えた「きらきらいずみプログラム」等によるキャリア教育・探究活動をととして、進路意識や社会性を育むとともに、地域理解や課題解決について主体的に学習します。

2 学習目標

教養を高め、個性を伸ばし、勤労と責任を重んじる豊かな人間性を育む
 ・人間関係形成・社会形成能力～社会とのかかわりの中で生活し、仕事をしていく上で基礎となる力～を養う
 ・自己理解・自己管理能力～やればできると考えて行動できる力～を養う
 ・課題対応能力～自らが行うべきことに意欲的に取り組むうえで必要なもので、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前向きに進めていくために必要な力～を養う
 ・キャリアプランニング能力～社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力～を身に付ける

3 指導の重点

「自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究などを通して」指導する。

ポイント

1. 望ましい勤労観、職業観の育成
2. 産業の発展による社会変化についての考察
3. 自己進路と履修計画の作

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
産業社会の構造や地域産業、企業などについて基本的な知識を身に付け、それらを自らの進路選択に向けて積極的に活用する意義を理解している。 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気づき、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付いている。	自らの興味や関心、進路希望を基に、将来の生活設計について思考を深め、目的に応じて構成や展開を工夫して表現することができる。 地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問を見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けている。	産業社会に関心を持ち、企業や上級学校に関する情報を積極的に収集し、自らの進路実現に向けた科目選択に対して主体的に取り組もうとしている。 主体的・協同的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 (a)	思考・判断・表現 (b)	主体的に学習に取り組む態度 (c)
評価方法	・講話記録 ・レポート ・調べ学習	・発表資料 ・発表	・レポート ・行動観察 ・自己評価 ・相互評価

6 学習計画

考查		単元名（学習項目）	授業時数	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	I 期 中 間	新入生オリエンテーション エンカウンター講習会 進路講演会 進路探究活動（系列選択、 選択科目決め）	10	・高校生活で取り組むべきことを理解する。 ・科目を理解し、学習方法を考える。 ・自己を理解し将来への希望や適性を探究する。 ・身近な職業人の話を聞き、自らの将来を考える。 ・次年度の系列を理解し、科目を選択する。	(a) (c)	授業態度 講話記録 提出物
	I 期 期 末	進路探究活動（上級学校調 べ） 校外研修	12	・大学見学を通して、進路選択の参考にする。	(a) (b) (c)	校外研修の参加態度 自己評価 相互評価 レポート
	II 期 中 間	探究活動（ふるさと理解）	14	・他者の意見を理解し、また、自己の意見を的確に表現する力を養う。 ・地域や社会の問題	(b) (c)	レポート 自己評価
後期	II 期 期 末	時事問題探究 学問調べ 大学講義体験	14	・変化について考える。 ・大学の講義を体験し、上級学校への理解を深め、進路決定の参考にする。	(a) (c)	授業態度 提出物
	年 次 末	合格体験を聞く会 1年間の振り返り	20	・自己を見つめ、今までの「産社」の学習から、自分の人生の計画を練り、進路を予測する。	(a) (c)	授業態度 講話記録 提出物

6 課題・提出物等

70時間（50分授業）

- ・各種講演会や大学講義体験などのレポート
- ・自己評価シート
- ・相互評価シート等

7 担当者からの一言

まずは自分をよく知ること。そして、社会への興味・関心を高めましょう。